

旧「大学院ホール」と院生研究室

柏 木 治

若いころの思い出は、しばしば土地の名前や象徴的な建造物と結びついている。わたしの場合、それが東急池上線沿線の街の名であることもあれば、JR吹田駅界限、さらには rue Garcia Lorca といった本人にしかわからないところであったりもする。広い大学のキャンパスも同様に、追懐されるさまざまな過去の断片が学舎のあちこちから顔をのぞかせる。なかでもとくに鮮やかに蘇るのは、いまはもう存在しない旧「大学院ホール」の佇まいと、ともに喚起される記憶の数々だ。蔦の這う白壁と赤茶けた屋根が特徴的な村野藤吾の手になる建築。その階下の一角に、打ち捨てられたように古びた院生の共同研究室があった（国文との共同使用だったが、事実上仏文が独占していた）。

数年間とはいえ、その部屋は生活の中心であり、ほぼ毎日通った。よそからの「流れ者」であるのに、まるで自宅のように一角を占有し、何人かの先輩と一日の大半をそこで過ごす。当時関大の大学院には、他大学出身者が多くいて——学費が圧倒的に安かったことも一因だろう——、大阪市大、大阪外大、同志社、立命、遠くは北大や東北大など、いろいろな大学から集まった「よそ者」が数のうえで本学出身者を上回っていた。しかし、そこには両者を分け隔てなく包み込む雰囲気があり、わたしにとってとても居心地のよいところだったのである。

いま振り返って、ここがかけがえのない場と思えるのは、お世辞にも勉強家とはいえない自分がここでいくつもの輪読会（フランス語原典の読書会）をやっていたことと関係している。5、6歳年長の、すでに非常勤講師として教えにいられていた方々（他大学院出身の講師も多かったのに、どういうわけかこの研究室に集結していた）とロラン・バルト

を毎週少しずつ読み、通算5冊ほど読み通して、さらにラカンやデリダへと幅を広げていった。同時並行で、やはり年上の先輩数名とフーコーを一字一句丁寧に読み進めてもいた。阪急淡路駅あたりに繰り出すための口実にしていたようなところもあったが（毎週じつによく呑んだ）、テキストを厳密に読むという作業を通じて、多くのことを諸先輩から教えていただいた。一週間の大半を輪読会の準備にあてなければならないこともあったが、いま考えても得難い体験である。年少の人たちとともにロマン主義や記号論関係の論文を輪読した時期もあったかと思う。

さまざまな記憶の行きつく先が決まってこの共同研究室であるのは、些かなりともここが原点であり出発点でもあるという自覚があるからだろう。当時の多くの先輩、同輩や後輩、学科をこえてお付き合いくださった先生方のあいだには、小生のような人間にも心を開いてくれる度量の広さや懐の深さ、ときに乱暴ではあっても大阪らしい自由で闊達な気風が溢れていた。そのなかを勝手気儘に泳がせてもらうなかで、知らず知らずのうちにこの道へと誘われたような気がしてならない。凡庸を絵に描いたような教員人生を送ることになったが、それでもこのうえない幸せを実感できたのは、ひとえにこうした大学の雰囲気と、そこに育まれた人と人の繋がりゆえである。そして、出発点はまちがいなく大学院ホールの建物のなかにあった。その思いは歳を重ねるごとに強くなっている。

*

本学仏語仏文学会の会員ではあるものの、勤務した32年のうち、仏文に身を置いたのは前半の17年間で、あとの15年はべつの部署に属していた。だから、いまこのようなかたちで文章を綴るにあたっては、いくらか複雑な思いも交錯する。

文学部がかつての8学科体制を解体して1学科多専修制へと移行した際、わたしは当時のフランス語フランス文学専修を離れ、新たに立ち上げられた文化共生学専修に移籍した。文学部再編の議論を推し進めた一人でもあったため、逡巡しながらもこのような選択をしたのだが、いつ

も心のどこかに「うしろめたさ」のようなものを感じていた。にもかかわらず、仏文の先生方はその後も変わることなく接してくださり、いろんな局面で助けてくれさえた。そして今回、こうして記念号まで出してくださいという。この類の文で「感謝」を連呼するのは月並みに過ぎるが、やはり感謝に堪えない。忘恩を恥じつつ、心からお礼を上げたい。

2021年度から仏文は「ヨーロッパ文化専修」のなかの「フランス言語文化コース」に生まれ変わったと聞く。フランス文学・文化が湛える粋で洒落な魅力は今後も色褪せることはないだろう。ぜひ時代にあった言語文化教育の基軸を紡ぎ出していきたいと思う。瀟洒な大学院ホールはもう記憶のなかにしかないが、「関大仏文」は名前を変えつつも、これまでと同じようにひときわ眩い光芒を放ち続けることだろう——そう信じてやまない。



旧大学院ホール（現存しない）
正面の建物の西端（向かって右端）階下に共同研究室はあった

略年譜

- 1956年 3月 和歌山県に生まれる
- 1974年 3月 和歌山県立田辺高等学校卒業
- 1975年 4月 慶應義塾大学文学部入学
- 1979年 3月 同 文学科フランス文学専攻卒業
- 1979年 4月 関西大学大学院文学研究科博士課程前期課程フランス文学専攻入学
- 1981年 3月 同 修了
- 1981年 4月 関西大学大学院文学研究科博士課程後期課程フランス文学専攻入学
- 1984年 3月 同 単位取得後退学
- 1987年10月 グルノーブル第3大学（スタンダール大学）第3期課程留学（フランス政府給費留学生）
- 1989年 3月 同 中途退学
- 1989年 4月 関西大学文学部 専任講師
- 1992年 4月 関西大学文学部 助教授
- 1996年 4月 関西大学在外研究員（学術研究）としてパリ第3大学にて研究（～1997年3月）
- 1997年 6月 日本フランス語フランス文学会関西支部幹事・実行委員（～1999年5月）
- 1997年 6月 公益法人フランス語教育振興協会評議員（～2013年5月）
- 1999年 4月 関西大学文学部 教授
- 2003年 4月 関西大学在外研究員（調査研究）としてパリ第3大学他で調査研究（～2003年9月）
- 2003年10月 関西大学全学共通教育推進機構長（～2006年9月）
- 2004年 6月 日本フランス語フランス文学会関西支部実行委員（～

- 2006年 5月)
- 2007年 6月 日本フランス語フランス文学会渉外委員 (～2011年 5月)
- 2008年10月 関西大学文学部副学部長 (～2010年 9月)
- 2012年10月 関西大学文学部長・大学院文学研究科長 (東アジア文化
研究科長兼務) (～2014年 9月)
- 2012年10月 関西大学理事 (～2014年 9月)
- 2015年 4月 織田作之助賞 (青春賞・U-18賞・奨励賞) 選考委員 (～
2022年 3月)
- 2015年 8月 日本私立学校振興・共済事業団 学術研究振興資金選考
委員会委員 (～2021年 7月)
- 2021年 3月 関西大学定年退職
- 2021年 4月 関西大学名誉教授

研究業績

〔著書（単著）〕

『スタンダールのオイコノミア～経済の思想、ロマン主義、作家であること～』 関西大学出版部 2017年3月 総ページ数342頁

『銀行家たちのロマン主義～一九世紀フランスの文芸とホモ・エコノミクス～』 関西大学出版部 2019年3月 総ページ数292頁

〔著書（編著・共著）〕

『スタンダール変幻——作品と時代を読む』 共著 日本スタンダール研究会編 慶應義塾大学出版会 鈴木昭一郎 栗栖公正 梶野吉郎ほか 2002年12月 担当393～413頁（総ページ数460頁）

『ヨーロッパの祭りたち』 共編著 明石書店 浜本隆志（編者） 柏木治（編者） 近藤昌夫 和田葉子 藤内哲也 成田瑞穂、明石書店 2003年4月 担当159～198頁 286～320頁（総ページ数323頁）

『色彩の魔力 文化史・美学・心理学的アプローチ』 共著 明石書店 浜本隆志（編者） 伊藤誠宏（編者） 柏木治 森貴史 溝井裕一 2005年4月 担当69～109頁（総ページ数245頁）

『ヨーロッパ人相学 顔が語る西洋文化史』 共編著 白水社 浜本隆志（編者） 柏木治（編者） 森貴史（編者） 溝井裕一 横道誠 2008年7月 担当27～78頁、242～260頁、285～300頁（総ページ数335頁）

『ヨーロッパ・ジェンダー文化論 女神信仰・社会風俗・結婚観の軌跡』 共著 明石書店 浜本隆志 伊藤誠宏 柏木治 森貴史 溝井裕一 2011年4月 担当188～229頁（総ページ数287頁）

『文化の翻訳あるいは周縁の詩学』 共著 水声社 内田慶市 鼓宗 柏木治 角伸明 近藤昌夫 2012年9月 担当83～126頁（総ページ数

237頁)

『欧米社会の集団妄想とカルト症候群 少年十字軍、魔女狩り、KKK、人種主義の生成と連鎖』 共著 明石書店 浜本隆志(編) 柏木治 高田博行 浜本隆三 細川裕史 溝井裕一 森貴史 2015年9月 担当 191～214頁、215～242頁(総ページ数397頁)

〔学術論文〕

「スタンダール「*récit*」における簡素化をめぐる」 関西大学大学院文学研究科院生協議会『千里山文学論集』第26号 1982年3月 35～57頁

「スタンダールの音楽論と〈感覚〉」 関西大学大学院文学研究科院生協議会『千里山文学論集』第28号 1983年3月 21～39頁

「感覚と言葉——スタンダールの感覚の読解のために：予備的考察」 関西大学大学院文学研究科院生協議会『千里山文学論集』第31号 1984年12月 1～17頁

「自伝の真実とエクリチュールの虚構——スタンダールの〈父〉をめぐる」 関西大学フランス語フランス文学会『仏語仏文学』第15号 1986年2月 189～203頁

「自己をめぐるエクリチュールと言語の問題」 『*Division by Zero*』 幻想社 第1号 1986年10月 53～73頁

「*D'un nouveau complot contre les industriels*の周辺——パンフレットから小説へ——」 関西大学フランス語フランス文学会『仏語仏文学』第16号 1987年2月 52～69頁

「『アルマンズ』とナルシズムの空間」 関西大学フランス語フランス文学会『仏語仏文学』第18号 1989年12月 121～134頁

「政治と『アルマンズ』誕生」 関西大学文学会『文學論集』第40巻第2号 1991年3月 1～15頁

「*Lucien Leuwen ou le jeu politique des couleurs et des costumes*」 関西大学文学会『文學論集』第45巻第2号 1995年12月 99～17頁

- 「Lucien Leuwen から Brulard にいたる政治的文脈 (I)」 関西大学文学会『文學論集』第45巻第3号 1996年2月 35~54頁
- 「Lucien Leuwen から Brulard にいたる政治的文脈 (II)」 関西大学文学会『文學論集』第46巻第3号 1996年12月 51~71頁
- 「自伝のなかの革命」 関西大学文学会『文學論集』第47巻第1号 1997年11月 31~49頁
- 「『南仏紀行』に関するいくつかの覚書」 関西大学文学会『文學論集』第48巻第1号 1998年10月 19~35頁
- 「Lamiel — 政治と情念のトボス」 関西大学フランス語フランス文学会『仏語仏文学』第27号 1999年2月 67~80頁
- 「フランス語教育の変遷 — 問題と展望」 一般教育等研究センター『研究センター報』第25号 1999年3月 91~99頁
- 「スタンダールにおける身体とまなざし」 関西大学フランス語フランス文学会『仏語仏文学』第27号 2000年2月 31~43頁
- 「勃興期の出版界とスタンダール (一) — 『イギリス通信』を中心に —」 関西大学文学会『文學論集』第51巻第4号 2002年3月 27~44頁
- 「スタンダールにおける〈醜〉の問題 — 自伝の読解から」 日本スタンダール研究会編『スタンダール変幻』慶應義塾大学出版会 2002年12月 393~413頁
- 「『リュシアン・ルーヴェン』における〈未決定〉の諸相」 関西大学フランス語フランス文学会『仏語仏文学』第30号 2003年2月 81~99頁
- 「« Voilà donc la belle France ! » — スタンダールと醜い風景 —」 関西大学文学会『文學論集』第58巻第2号 2008年10月 17~34頁
- 「フランス写本零葉『ある時禱書の7月のカレンダー』について」『ミニアチュール美術研究 — 関西大学図書館所蔵西洋写本を中心に —』(平成20-21年度学術研究助成基金による研究報告書) 2010年3月 20~35頁
- 「文化イデオロギーのなかの phrénologie — フランス王政復古期から七月

- 王政へ」 関西大学文学会『文學論集』第60巻第3号 2010年12月 42～61頁
- 「〈人間観察家協会〉と初期人間学的まなざし」 東西学術研究所編『関西大学東西学術研究所創立60周年記念論文集』 2011年10月 33～50頁
- 「〈言語少年〉と東方通詞」 関西大学フランス語フランス文学会『仏語仏文学』第38号 2012年2月 1～23頁
- 「十九世紀フランスにおけるゼノフォビア」 関西大学文学会『文學論集』第62巻第2号 2012年9月 49～71頁
- 「小説の近代と反近代——1830年代のスタンダール——」 関西大学文学会『文學論集』第62巻第4号 2013年3月 83～101頁
- 「«le réel»と«l'idéal»のあいだ——スタンダールにおける金銭の問題から——」 関西大学文学会『文學論集』第63巻第3号 2013年12月 26～48頁
- 「革命期の文化イデオロギー——ベルナルディーノ・ドロヴェッティと文化遺産(1)——」 関西大学国際文化財・文化研究センター *Journal of the Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture*, vol. 1 2014年3月 113～124頁
- 「再考 スタンダールと経済思想」 関西大学文学会『文學論集』第65巻第1号 2015年7月 159～176頁
- 「産業主義のメタファー——再考 スタンダールと経済思想(Ⅱ)——」 関西大学文学会『文學論集』第65巻第2号 2015年10月 191～209頁
- 「エジプト古代遺産収集と文明史的な位置づけ——ベルナルディーノ・ドロヴェッティと文化遺産(2)——」 関西大学国際文化財・文化研究センター *Journal of the Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture*, vol. 3 2016年3月 189～202頁
- 「理工科学校の残照——スタンダールの小説世界におけるポリテクニシャン」 関西大学文学会『文學論集』第66巻第2号 2016年9月 101～128頁
- 「銀行家と小説——スタンダールにおける銀行家の位置」 関西大学文学

- 会『文學論集』第66巻第3号 2016年12月 293～312頁
- 「一八二〇年代の〈個人主義〉論とスタンダール」 関西大学文学会『文學論集』第67巻第1号 2017年7月 91～113頁
- 「一九世紀前半における〈銀行家〉の社会的地位と文学空間（一）」 関西大学文学会『文學論集』第67巻第3号 2017年12月 一～三〇頁
- 「フランス19世紀初期における〈文明観〉とエジプト」 関西大学国際文化財・文化研究センター編『国際的な文化遺産の保存・活用に関する総合的研究』（文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 最終成果報告書）2018年3月 299～317頁
- 「革命から第一帝政時代の金融界とその周辺——一九世紀前半における〈銀行家〉の社会的地位と文学空間（二）」 関西大学文学会『文學論集』第68巻第2号 2018年9月 一～二四頁
- 「王政復古期における銀行家たちの文化活動——一九世紀前半における〈銀行家〉の社会的地位と文学空間（三）」 関西大学文学会『文學論集』第68巻第3号 2018年12月 一～二四頁
- 「ロマン主義的遠近法——王政復古期における理念と現実のあいだ——」 関西大学文学会『文學論集』第70巻第3号 2020年12月 二九～四九頁
- 「サロンと文人・芸術家たち——庇護活動の変容と著名性の問題」 関西大学文学会『文學論集』第71巻第3号 2021年12月 三一～五六頁

〔翻訳〕

- ジャン・ボードリヤール他『世紀末の政治 TRAVERSES 6』 共訳 リポート 今村仁司（監修） 永田共子 柏木治 和田ゆりえ 野村直正（訳） 1992年3月 担当45～74頁 143～161頁、186～220頁（総ページ数317頁）
- E・ルモワヌ＝ルッチオーニ『衣服の精神分析』 共訳 産業図書 鷲田清一・柏木治（訳） 1993年5月 担当1～3頁、17～235頁（総ページ数240頁）

- 『東西文化の翻訳 〈聖像画〉にみる中国同化のみちすじ』 共編訳 関西
大学出版部 内田慶市(編) 柏木治(訳) 2012年3月 担当9~141
頁(総ページ数141頁+影印284頁)
- キューコ「あるアヴェンギャルドの死体解剖」『現代思想』青土社 第
17巻第11号 1989年10月 159~166頁
- E. ルモワース=ルッチオーニ「仮面」『imago』青土社 第2巻第4号
1991年4月 144~158頁
- スラヴォイ・ジジェク「政治権力とイデオロギーのメカニズム」『imago』
青土社 第3巻第7号 1992年7月 50~66頁
- G. G. ド・クレランポー「女性における布への性愛的情熱」共訳『現
代思想』第22巻第14号 柏木治・和田ゆりえ(訳) 1994年12月 担当
196~212頁
- パスクワレ・M・デリア「中国キリスト教美術の起源(1583年~1640
年)」(I)『或問』近代東西言語文化接触研究会 第8号 2004年10
月 85~104頁
- パスクワレ・M・デリア「中国キリスト教美術の起源(1583年~1640
年)」(II)『或問』近代東西言語文化接触研究会 第10号 2005年11
月 100~120頁
- パスクワレ・M・デリア「中国キリスト教美術の起源(1583年~1640
年)」(III)『或問』近代東西言語文化接触研究会 第12号 2006年12
月 69~115頁
- パスクワレ・M・デリア「中国キリスト教美術の起源(1583年~1640
年)」(IV)『或問』近代東西言語文化接触研究会 第13号 2007年
10月 125~131頁

[学会発表等]

- 「スタンダールの音楽論」関西大学フランス語フランス文学会 1982年12
月
- 「La classe pensante — スタンダールの *D'un nouveau complot contre les*

- industriels* について —」 関西大学フランス語フランス文学会 1986年12月
- « Quelques remarques sur l'écriture autobiographique de Stendhal », Journées d'études 1988, Centre d'études stendhaliennes et romantiques, Grenoble, 1988年12月
- 「幸福と全体性 — 『パルムの僧院』について」第5回日本スタンダール研究会 1991年7月
- 「Lucien Leuwen から *Vie de Henry Brulard* への政治的文脈」第14回日本スタンダール研究会 1995年12月
- 「『リュシアン・ルーヴェン』 — その政治的欲望のゆくえ」第21回日本スタンダール研究会 1998年3月
- 「Physionomieのリアリテに向けて」第23回日本スタンダール研究会 1999年12月
- 「〈産業家〉と〈考える階級〉について」第61回日本スタンダール研究会 2013年12月
- 「エジプト黄道帯星座図と19世紀初期のフランス文化」国際シンポジウム「世界の文化財保護～地域に根ざした活動と課題～」 2016年2月
- 「スタンダールとブルジョワ芸術家」第76回日本スタンダール研究会 2021年12月

〔その他の口頭発表・講演・対談・研究報告等〕

- 「外国語教育に関する他大学調査報告 — 慶應義塾大学日吉キャンパスの外国語」（調査報告）一般教育等センター『研究センター報』第18号 1994年3月 135～137頁
- 「フランス語教材の動向 — テキストの比較から」（口頭発表）一般教育等研究センター 1998年7月
- 「在外研究報告：二、三の印象…」（研究報告）『日本スタンダール研究会報』第7号 1997年5月 9頁
- 「Physionomie とリアリテ」（研究報告）『日本スタンダール研究会報』第

- 10号 2000年5月 13～14頁
- 「授業改善への模索——授業評価を中心に」（講演）神戸大学国際文化学部 2006年1月
- 読書教養講座「自分にとって書くこと、読むこと」（ゲスト：あさのあつこ氏、講演と対談）21世紀活字文化プロジェクト 読売新聞社 2008年11月
- 読書教養講座「読書のひみつ、読書のよろこび」（ゲスト：川上未映子氏、講演と対談）21世紀活字文化プロジェクト 読売新聞社 2009年11月
- 読書教養講座「読書と創作の現場から」（ゲスト：万城目学氏、対談）21世紀活字文化プロジェクト 読売新聞社 2010年10月
- 読書教養講座「なぜ学ぶのか」（ゲスト：福岡伸一氏、講演と対談）21世紀活字文化プロジェクト 読売新聞社 2011年11月
- 読書教養講座「書き方無手勝流」（ゲスト：長田渚左氏、講演と対談）21世紀活字文化プロジェクト 読売新聞社 2012年12月
- 読書教養講座：「この時代を生きる——文学の視点から」（ゲスト：池澤夏樹氏、講演と対談）21世紀活字文化プロジェクト 読売新聞社 2013年9月
- 「スタンダードと「金」——外交官小説家の懐事情」（講演）日仏文化講座（CAF）／神戸国際会館 2014年6月
- 読書教養講座：「江戸も東京も雨が似合い、夜がいい～文学が創った日本人の都市とこころ～」(ゲスト：ロバート・キャンベル氏、講演と対談) 21世紀活字文化プロジェクト 読売新聞社 2014年12月
- 「小説家Mの、傍迷惑生活！」(第31回織田作之助賞受賞記念講演会 朝井まかて氏との公開対談) 関西大学・織田作之助賞実行委員会 2015年7月
- 読書教養講座「本と旅と人生論」（ゲスト：ヤマザキマリ氏、講演と対談）21世紀活字文化プロジェクト 読売新聞社 2015年10月
- 「文化と文化遺産～エジプト遺産と文化イデオロギー」（平成27年度文化

- 財保存修復セミナー) 関西大学 国際文化財・文化研究センター
2016年2月
- 「〈締め切り〉という言葉がなくなる日」(第32回織田作之助賞受賞記念講演会 三浦しをん氏との公開対談) 関西大学・織田作之助賞実行委員会 2016年7月
- 読書教養講座「読む楽しみ、書く楽しみ」(ゲスト:中江有里氏、講演と対談) 21世紀活字文化プロジェクト 読売新聞社 2016年12月
- 読書教養講座「職業としての物語作家」(ゲスト:桜庭一樹氏、講演と対談) 21世紀活字文化プロジェクト 読売新聞社 2017年10月
- 「文化と文化遺産」(セミナー講義録)『平成27年度 文化財保存修復セミナー講義録』関西大学国際文化財・文化研究センター 2017年2月 346~374頁
- 「青春と文学」(公開シンポジウム) 慶應義塾大学文学部・三田文学会主催 2018年1月
- 読書教養講座「文学だけが文学じゃない」(ゲスト:赤坂真理氏、講演と対談) 21世紀活字文化プロジェクト 読売新聞社 2018年12月
- 「青春賞・新人賞作家大いに語る! — 『三田文学』136号掲載織田作之助青春賞をめぐって —」(公開シンポジウム) 慶應義塾大学文学部・三田文学会主催 2019年3月
- 読書教養講座「ゼロから紡ぐ、読み手に託す」(ゲスト:森絵都氏、講演と対談) 21世紀活字文化プロジェクト 読売新聞社 2019年11月
- 読書教養講座「絶望を書く、光を描く」(ゲスト:町田そのこ氏、講演と対談) 21世紀活字文化プロジェクト 読売新聞社 2021年11月
- 〔雑誌記事・書評・選評等〕
- « Un cercle stendhalien au Japon » (雑誌記事) *STENDHAL CLUB Revue internationale d'études stendhaliennes*, no. 131 1991年4月 264頁
- 「リセとエスタミネ」(雑記記事)『ユリイカ』青土社 第25巻第9号 1993年8月 252頁

- « C.W. Thompson : *Lamiel Fille du Feu. Essai sur Stendhal et Energie*, L'Harmattan, 1997 » (書評) 『日本スタンダール研究会報』 第 8 号 1998 年 5 月 18~19 頁
- 「FD 活動の展開——全学共通教育推進機構の取り組み」(雑誌記事) 『大学時報』 日本私立大学連盟 第302号 2005年 5 月 54~59 頁
- 「〈煙突〉とサンタ」(雑誌記事) 『三田評論』 慶應義塾 2005年12月 第1085号 71 頁
- 「〈共時性〉をキーワードに」(新聞記事) 読売新聞(朝刊) 2008年12月 20日
- 「確かなリアリティー」(第32回織田作之助賞青春賞・U-18賞選評) 毎日新聞(朝刊) 2016年 1 月10日 (『文學回廊』 第 1 号再録)
- 「選評」(第32回織田作之助賞青春賞) 『三田文學』 三田文学会 第124号 2016年 2 月 131~132 頁
- 「楽しみな13歳」(織田作之助賞青春賞・U-18賞選評) 毎日新聞(朝刊) 2017年 1 月10日 (『文學回廊』 第 2 号再録)
- 「選評」(第33回織田作之助賞青春賞) 『三田文學』 三田文学会 第128号 2017年 2 月 194~195 頁
- 「力強い性衝動 新鮮」(第34回織田作之助賞青春賞・U-18賞選評) 毎日新聞(朝刊) 2018年 1 月10日 (『文學回廊』 第 3 号再録)
- 「選評」(第34回織田作之助賞青春賞) 『三田文學』 三田文学会 第132号 2018年 2 月 341~342 頁
- 「巧みな戦略 裏打ち」(第35回織田作之助賞青春賞・U-18賞選評) 毎日新聞(朝刊) 2019年 1 月10日 (『文學回廊』 第 4 号再録)
- 「選評」(第35回織田作之助賞青春賞) 『三田文學』 三田文学会 第136号 2019年 2 月 194~195 頁
- 「絶妙に配された三者」(第36回織田作之助賞青春賞・奨励賞選評) 毎日新聞(朝刊) 2020年 1 月10日 (『文學回廊』 第 5 号再録)
- 「選評」(第36回織田作之助賞青春賞) 『三田文學』 三田文学会 第140号 2020年 2 月 277~278 頁

「大きな欠点ない」(第37回織田作之助賞青春賞・奨励賞選評) 毎日新聞
(朝刊) 2021年1月10日 (『文學回廊』第6号再録)

「選評」(第37回織田作之助賞青春賞)『三田文學』三田文学会 第144号
2021年2月 145～146頁

〔外部資金獲得〕

2009年度 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究「近代ヨーロッパ文学における〈人種〉問題の研究——EU型多文化共生論への寄与」 研究代表者(～2011年)

2013年度 私立大学戦略的基盤形成支援事業「国際的な文化財活用方法の総合的研究」 研究分担者(～2018年)